

乙 第 号

棚瀬 康仁 学位請求論文

審 査 要 旨

奈 良 県 立 医 科 大 学

論文審査の要旨及び担当者

報告番号	乙第号	氏名	棚瀬 康仁
論文審査担当者	委員長	教授	吉川 公彦
	委員	教授	大林 千穂
	委員	教授	小林 浩
	(指導教員)		

主論文

. Factors that Differentiate between Endometriosis-associated Ovarian Cancer and Benign Ovarian Endometriosis with Mural Nodules.

子宮内膜症関連卵巣癌と隆起性病変を有する良性卵巣内膜症を鑑別する因子の検討

論文審査の要旨

卵巣嚢胞壁の隆起性病変とその乳頭状増生は、卵巣子宮内膜症の悪性化（子宮内膜症関連卵巣癌）を示唆する所見であるが、良性の卵巣子宮内膜症においても認められるため、良悪性の鑑別に難渋することがある。本研究では病理学的に診断が得られた隆起性病変を有する卵巣子宮内膜症 42 例（OE 群）と子宮内膜症関連卵巣癌 40 例(EAOC 群)を後方視的に抽出し、術前骨盤 MRI の画像的特徴、臨床的背景および病理診断について、2 群間で比較検討した。

EAOC 群は OE 群と比して有意に高齢で、嚢胞径、隆起性病変の大きさ、縦横比において有意に高値を呈した。嚢胞の信号強度の検討では、OE 群の 90%が T1 強調像で高信号を呈し、その 64%に shading を認めたが、EAOC 群の T1 強調像は様々な信号を呈し、T2 強調像では 93%が高信号を呈し、shading は 14%にしかなかった。OE 群の隆起性病変の 90%が後壁側付着であったのに対し、EAOC 群では 62.5%が前壁付着であった。隆起性病変の高さ(>1.5cm)、縦横比(>0.9)、嚢胞径(>7.9cm)、年齢(>43 歳)が OE 群と EAOC 群を鑑別する独立因子として抽出された。これらの形態的指標に関する知見は MRI だけでなく、経膈超音波検査での形態的評価に応用が可能で、日常臨床で汎用性の高いものであることより、本研究は独創的かつ極めて有意義であり、学位に値するものと考えられる。

参 考 論 文

1. 嚢胞性腫瘍の結節性所見を検証する

棚瀬康仁、森岡佐知子、伊東史学、春田祥治、川口龍二、吉田昭三、古川直人、大井豪一、小林浩

日エンドメトリオーシス会誌 2014; 35: 268-272

2. Risk of carcinoma in women with ovarian endometrioma

KOBAYASHI HIROSHI, KAJIHARA HIROTAKA, YAMADA YOSHIHIKO, TANASE YASUHITO, KANAYAMA SEIJI, FURUKAWA NAOTO, NOGUCHI TAKETOSHI, HARUTA SHOJI, YOSHIDA SHOZO, NARUSE KATSUHIKO, SADO TOSHIYUKI, OI HIDEKAZU.

Front Biosci (Elite Ed). 2011 Jan 1; 3: 529-539

3. Modulation of estrogenic action in clear cell carcinoma of the ovary

YASUHITO TANASE, YOSHIHIKO YAMADA, HIROSHI SHIGETOMI, HIROTAKA KAJIHARA, AKIRA OONOGI, YORIKO YOSHIKAWA, NAOTO FURUKAWA, SHOJI HARUTA, SHOZO YOSHIDA, TOSHIYUKI, SADO, HIDEKAZU OI, HIROSHI KOBAYASHI.

Experimental and Therapeutic Medicine 2012 3: 18-24

以上、主論文に報告された研究成績は、参考論文とともに産婦人科学の進歩に寄与するところが大きいと認める。

平成 30 年 3 月 6 日

学位審査委員長

画像診断・低侵襲治療学

教 授 吉川公彦

学位審査委員

臨床病理診断学

教 授 大林千穂

学位審査委員（指導教員）

女性生殖器病態制御学

教 授 小林 浩